

SDGs 三利特殊鋼の取り組み

Introduction

13 気候変動に
具体的な対策を

**SDGs 13 気候変動に具体的な対策を**

いま世界中でさまざまな気候変動が起こっています。

日本でも豪雨や酷暑の被害は記憶に新しく、農作物や海洋資源への打撃による食料問題もいざれ顕在化するでしょう。

その気候変動の大きな原因は地球温暖化にあると言われています。目標13は私たちがこれからも生きていく上で、積極的に取り組まなければいけない目標のひとつです。

平均気温が上昇すると異常気象などが増える

温度上昇		1度 (現在)	1.5度 の場合	2度の 場合
熱波など 極端な高温	気温	+1.2度	+2度	+2.7度
	発生率	4.8倍	8.6倍	13.9倍
極端な大雨	雨量	+6.7%	+10.5%	+14%
	発生率	1.3倍	1.5倍	1.7倍
農業に被害を 及ぼす干ばつ	発生率	1.7倍	2倍	2.4倍
2100年までの 海面上昇(1995~ 2014年比)	高さ	—	0.28~ 0.55 メートル	0.32~ 0.62 メートル

(注)IPCC第1作業部会第6次評価報告書をもとに作成

▲日本経済新聞2021/8/10より抜粋

気温1.5度上昇 10年早く IPCC報告「21~40年に」

国連の気候変動に関する政府間パネル(IPCC)は、産業革命前と比べた世界の気温上昇が2021年~40年に1.5度に達するとの予測を公表した。2018年の想定より10年ほど早くなる。

人間活動の温暖化への影響は「疑う余地がない」と断定した。自然災害を増やす温暖化を抑えるには二酸化炭素排出を実質ゼロにする必要があると指摘した
(日本経済新聞2021/8/10 一部抜粋)

この記事のように、過去の予測より確実に早く地球温暖化は進んでいます。私たち一人ひとりが温室効果ガスを減らせるよう意識的に活動していくことも大切ですが、確実に起こる災害に適応し、対応する力もこれからは必要になります。

目標13を構成する5個のターゲットのうち、1つめのターゲットでは『すべての国々において、気候変動に起因する危険や自然災害に対するレジリエンスおよび適応力を強化する』としており、三利特殊鋼ではここに焦点を当て、全社的に取り組んでいます。

三利特殊鋼の取り組み

目標13では個人での取り組みも重要です。

暖房や給湯・調理のためのガスの使用、家電による電気使用など家庭から排出される二酸化炭素は日本では約2割です。

SDGsに取り組み、共有することで社員全員の意識を高め一人一人が少しでも二酸化炭素排出を少なくできるように心がけています。

三利特殊鋼としてはBCP(事業継続計画)を8/1に新規制定しました。

「守るべき業務」と「守るべき水準」を事前に明確に定めておくことで、自然災害による危機的状況に備えています。

また従業員全員で災害用伝言ダイヤル(171)の体験利用を行い、事前に使用方法を学んでおります。「備えあれば憂いなし」を体現し、お客様、そして社会に貢献してまいります。



弊社社員斎藤と社長